

1 阪神・淡路大震災から 30 年

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、兵庫県・淡路島北部を震源とするマグニチュード 7.3、最大震度 7 の阪神・淡路大震災が発生しました。当社では、石屋川車庫の全壊や複数の高架橋の落橋・損傷、126 両もの車両の被災などの甚大な被害を受けました。

阪神・淡路大震災による被災状況



被災直後から不眠不休で復旧作業にあたり、翌日の 18 日から本線梅田駅（現大阪梅田駅）～甲子園駅間、西大阪線（現阪神なんば線の西九条駅～尼崎駅間）で運転を再開、その後も被害が比較的小さかった区間等から段階的に運行を再開し、震災から 160 日後の 1995 年 6 月 26 日に全線での運行再開を果たしました。その後も復旧工事を継続し、震災から 428 日後の 1996 年 3 月 20 日、石屋川車庫の完成をもって完了しました。

阪神・淡路大震災以降に入社した社員が多くなる中、当社では震災から 30 年の節目を迎えた 2025 年 1 月 17 日、震災の経験と教訓を次世代に引き継ぐとともに、鉄道事業者としての原点である「安全・安心」を再確認することを目的に、社内行事を実施しました。

■ 震災後初めての神戸市内での運転再開

地震発生から 9 日後の 1 月 26 日には、甲子園駅～青木駅（神戸市東灘区）まで運転を再開しました。この時、被災した沿線住民の皆さまより「大阪と神戸が鉄道で繋がった!」「復興へ勇気づけられた!」など、運転再開を待ち望んでいたとの声を多くいただき、鉄道が地域社会に果たす役割の大きさを実感しました。

2024 年度より開始した安全啓発研修では、震災未経験の社員に当時の様子が少しでも伝わるよう、エピソードを交えながら紹介するなどの工夫をしています。



●安全祈念



本社会議室において、会長、社長をはじめとする役員、部長、都市交通事業本部の職員等が参集し、正午に黙とうしました。

●震災を経験した社員による座談会



阪神・淡路大震災における初動対応や復旧業務の実体験を次の世代に継承していくために、「先輩社員から学ぶ～阪神・淡路大震災の経験と教訓～」と題し、第一線で復旧にあたった先輩社員から主に若手社員に向けて、当時の苦労話などのエピソードを話す座談会を実施しました。

座談会に参加して



電気部 通信課 通信管理事務所 (入社12年目)

未曾有の災害という過酷な状況にも関わらず、沿線住民やお客さまの安全確保、さらに鉄道設備の復旧に向けて尽力された先輩方の使命感や責任感に感銘を受けました。今後、南海トラフ地震の発生も十分に考えられるので、震災が発生した際には、今回拝聴した先輩方の体験談を思い出し、日頃の設備点検や復旧訓練等で培った知識と技術力を活用して、鉄道設備の早期復旧に努められるよう、日頃から備えていきたいと思っています。

●震災関連情報のパネル展示・ビデオ上映

2025年1月14日～1月23日にかけて、本社会議室において阪神・淡路大震災発災から復旧までの428日間の記録資料や当時の写真、映像等を展示・上映しました。グループ会社を含め多くの社員が参加しました。



震災記録の写真パネル・ビデオ上映



被災状況を記録した資料

パネル展示を見学して



運輸部 運転課 (入社28年目)

震災当時、私は高校1年生で神戸市須磨区に住んでいました。当日の朝、感じたことのない揺れにより目が覚めました。テレビで続々と神戸の被害状況が映し出されると「これが本当に現実なのか」と愕然としました。今回のパネル展示を見て、当社の旧石屋川車庫や新在家駅付近での列車脱線、線路がありえないくらい曲がりくねった状況からここまで復旧したなど、当時の先輩方の苦労と努力を考えると感極まりました。我々も先輩方が残してくれた阪神・淡路大震災の教訓を活かし、万が一重大震災が発生した際にはお客さまの安全を考えた行動がとれるよう日々努力していきたいと思っています。

これからもお客さまに安心してご利用いただけるよう各種訓練や教育を通じて過去の災害の教訓を継承し、備えることにより日々の安全輸送の確保に努めていきます。また、沿線や地域の皆さまとともに防災力を高める共助の取組みにも注力していきます。

2 更なる安全性向上への取組み

●阪神なんば線淀川橋梁改築工事を進めています!

現在の阪神なんば線淀川橋梁は、線路部分が堤防の高さより低く、台風接近等により高潮が想定されるときには河川の氾濫を防ぐため列車を運休させて防潮鉄扉を閉鎖する必要があります。これを恒久的に解消するために新たな橋梁を建設(2027年完成予定)するとともに、前後の区間を高架化し、工事区間(約2.4km)にある5か所の踏切道を廃止*します。

*これにより阪神なんば線の全ての踏切道がなくなります。



完成イメージ



仮駅舎(福駅)



河川内の施工状況



高架構造物の構築

現在、淀川河川内では橋桁の架設工事を進めています。また、淀川西岸方及び淀川東岸方では、尼崎方面行きの高架構造物の構築工事を進めており、今後は駅舎工事にも順次着手していく予定です。



行き先は、
安全・安心な未来です。

当社HPでは担当社員の生の声などを掲載した特設WEBサイトを公開中です。ぜひご覧ください!